

# S.G. Report

No.10

## 『スーパーグローバルセッション from Seiseiko』

- 日時： 平成27年12月18日(金) 13:00~16:20 県立劇場コンサートホール
- 参加者： (1)1・2年生全生徒および職員  
(2)学校評議員(来賓)および保護者の参観希望者  
(3)同窓会(来賓)  
(4)県教育委員会(来賓)・運営指導委員会(来賓)・指導助言委員会(来賓)  
(5)県下高校・県下高校・県下大学  
(6)一般参加者(県外のSGH指定校関係者)

### オープニング13:00~13:15

#### (1) 創作ダンス

研究テーマである「環境」。  
これをテーマにした創作ダンスをオープニングの一部としておこなった。発表クラスは2年8組でテーマは『花の一生～生命の輪～』。生態系の循環を表現したものだ。



#### (2) 養長挨拶

英語によるスピーチを行った。

### 第1部：リサーチプロジェクト13:15~13:55 (40)

#### (1) 生徒課題研究発表(1年生グループ研究)

1年生は大きな舞台で初めての発表に少し緊張している面持ちだった。しかし、研究に至るまでの動機や、実際に行ったアンケート、今現在、考えられる問題点、その改善策などについて、堂々と英語で発表をすることが出来た。

《1年生グループテーマ》

- 1) Review of transportation to reduce carbon dioxide.  
【二酸化炭素削減のための交通機関の見直し】
- 2) Reuse of plastic bottles and human relationships.  
【ペットボトルリユースと人とのつながり】



#### (2) 生徒課題研究発表(2年生個人研究)

2年生は個人による発表で、英語で発表しながらのパワーポイント操作で少々大変そうではあったが、準備した時間とこれまでの経験からか、自信をもって発表をしていた。また研究内容も様々な視点から研究をしており、研究の深さを感じられるものであった。



## 《2年生個人テーマ》

- 1) Separation and reduction of trash to save the Earth.  
有働百花 『地球を救うごみ分別と削減』
- 2) Learning from Minamata  
～Making an environmentally conscious city～  
猿渡涼香 『水俣から学ぶ環境を意識した街づくり』

1年生2年生のどちらにも発表を観客席で聞いている生徒から質問が出て、活気があるグループ発表と個人発表であった。



## 第2部：SG ポスターセッション14：10～15：10（60）

1年生はグループで2枚ずつ作成したポスターを、2年生は個人で1枚にまとめたポスターを用いて参加型ポスターセッションをおこなった。時間を区切り移動を促しつつのポスターセッションであったが、中には質疑応答で時間が足りないところもあり、とても活発で充実した時間であった。また、発表生徒たちは参加者から直接質問を受けたり、反応を直に見たりすることができ、よい刺激を受けているようだった。



## 第3部：コミュニケーションプロジェクト15：20～16：05（45）

### （1）海外研修報告

10月25日から31日まで、2年生のSGコース在籍の33名の生徒が環境先進国であるドイツへ行き、環境関連施設の視察や大学訪問、姉妹校との交流などをおこない、その報告をした。

生徒たちは事前の準備や事後の振り返り等をとおして、自国の文化や歴史について見つめなおすと共に、この研修で得た知識や情報をそれぞれの課題研究への深化へとつなげることができた。



### （2）即興型英語ディベートデモンストレーション

テーマ：Economic growth should be prioritized more than environmental protection.

【経済成長は環境保全よりも優先すべきだ】

1年生1名、2年生2名の3人でそれぞれ肯定側、否定側のグループづくり、即興型英語ディベートのデモンストレーションを行った。また今回はディベートの説明や各ディベーターの発言後の解説だけでなく、ジャッジも2年生の生徒がおこなった。

この即興型英語ディベートは『いかにジャッジを納得させるか』というのが最大のポイントであり、ディベートの最後では会場全体に肯定側と否定側のどちらの意見に納得できたか、とジャッジが会場に問いかけをした。会場は否定側、ジャッジ2名は具体例がよく述べられていた点を挙げ、肯定側にポイントを与えた。



## 講評 16:10~16:20 (10)

論文作成をご指導・ご助言をいただいている熊本大学 特任准教授 久恒昭哲先生より講評を頂いた。

「環境」という難しい課題を自分自身の課題のように取り上げ研究し、国際的な問題から身近な問題まで広く取り上げ、自分たちの言葉で伝えていた点が素晴らしい、というお言葉を頂いた。

また今おこなっている活動を今後も引き続き取り組んでほしいという願いを含め、“The future has already begun.”という言葉を生徒たちに送られた。



## クロージング 15:20~15:25 (5)

### 【感想】 (ほぼ原文のまま)

- 同じ高校生と思えないような素晴らしい活躍だった。
- 新しく知り、学んだことがたくさんあった。どの研究内容も難しいのに、それを英語で発表しているSGのみんなは素晴らしいと思った。とくにポスターセッションでは、発表者に質問をすることができたので、より一層内容を理解することができた。どの研究内容にも私たちの身近なことを少しだけ行動を変えることによって、貢献していきたいと思った。
- 同じ済々黌生が素晴らしい研究をしていて刺激を受けた。特に即興型英語ディベートデモンストレーションはすごいと思った。
- 環境について一生懸命調べ、わかりやすいようにまとめてあり、私ももっと環境について考えたいと思った。
- 自分の研究内容に対してこだわりを持ち、どんな質問に対しても分かりやすく回答してくれよかった。
- 各自調べたことがすべて充実したものになっており、分かりやすかったため、とても良いものになっていると思った。
- SGクラスが普段どのようなことをしているのかがよく分かった。SGH一員として私たちも意識を高めていきたいと思った。
- ポスターセッションの時、みんな一生懸命発表していて、とても熱意が感じられた。でも質問の時間が短かった。
- さまざまな問題に対する解決策を、視点を変えながら考察出来ていて、自分の考えの参考になっていくと思った。今回、学んだことをこれからの生活で生かしていきたい。
- SGコースの人たちが普段どのような学習をしているのかがよく分かった。また、自分と同年代の人たちが環境について考えを深めているということがとてもすごいと思った。
- 英語での発表など、とても新鮮なものが多かった。また最近話題になっているものも取り上げられて、とても興味深いものだった。
- 「環境」というテーマだけなのに、たくさんの方があっておもしろかった。
- リサーチプロジェクトではみんなが英語を上手に話していて、レベルの高さを感じた。ポスターセッションもよくまとめられていて分かりやすかった。
- 普段なかなか知ることのできないSGの活動内容を知ることができ、とても良い経験となった。環境を大切にするための取り組みは、私たちも進んで行くべきだと思った。